

事務事業分析シート（令和元年度）

No1

事務事業コード	06-04-01	戦略プラン	<input type="radio"/> 協働	<input type="radio"/> 業務	<input type="radio"/> 財務	<input type="radio"/> 人事	
事務事業名	観光情報提供事業	部課名	産業経済部観光振興課	課長名	石崎		
		担当者名	本宮	内線	461		
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（元年度）	01-01-01	観光情報提供事業					
事務事業の種類	<input type="radio"/> 新規事業（ <input type="radio"/> 元年度 <input type="radio"/> 30年度）		<input type="radio"/> 建設事業		<input checked="" type="radio"/> それ以外の継続事業		
開始年度	<input type="radio"/> 昭和 <input checked="" type="radio"/> 平成 <input type="radio"/> 令和	14年度	根拠				
終期設定	<input type="radio"/> 有 <input checked="" type="radio"/> 無	年度	法令等				
実施基準	<input type="radio"/> 法令基準内 <input type="radio"/> 都基準内 <input checked="" type="radio"/> 区独自基準		計画区分	<input checked="" type="radio"/> 計画 <input type="radio"/> 非計画			
行政評価事業体系	分野	Ⅲ	産業革新都市				
	政策	06	人が集う魅力あるまちの形成				
	施策	02	受入体制の充実と観光情報の発信				
目的	荒川区の観光情報を区内外に広く提供することによって、区のイメージアップを図るとともに区への来訪者を増やし、地域経済の活性化を図る。						
対象者等	区外の人々及び区への来訪者						
内容	①イベントカレンダー作成(14年度～)、H22、23英語版、②HPに区内行事のインターネット動画配信(14年度～)、③HPに都電荒川線花見どころサイトの開設(14年度～26年度)⇒27年度より区HPへ統合④まちあるきマップ作成(17年度 日暮里・南千住、18年度 都電、19年度 日暮里・南千住改訂、20年度 都電に舎人ライナーを含め改訂、21年度 日暮里・南千住改訂、日暮里・谷中作成、22年度 都電改訂、24年度 南千住改訂、27年度 日暮里改訂・千住散策マップ改訂・日暮里・谷中増刷改訂、28年度 全マップ増刷、29年度 都電改訂、日暮里・南千住、日暮里・谷中増刷)、30年度 南千住改訂、都電・日暮里増刷)⑤観光PR協力所設置92か所(H31.3.31現在)、⑥都電荒川線散策マップ(19年度)、⑦行政観光パンフレット作成(20年度作成、23年度改訂)、⑧観光スポット特集冊子の作成(20年度)、⑨京成日暮里駅構内PRコーナー運営(24年度～ 掲示板2か所、ラック 1台)、⑩イメージポスター作成(24年度)、⑪ツイッター開始(24年度)、⑫日暮里駅前イベント広場電光掲示板情報更新(25年度～)、⑬南千住駅構内PRコーナー運営(26年度～机1台、パーテーション1台)						
経過	○平成22年度から観光ボランティアガイド事業を受入体制整備事業へ移管した。 ○区内行事のインターネット動画配信 18年度から9件(都電荒川線のバラ、素盞雄神社天王祭、諏訪神社御神幸祭、胡録神社例大祭、尾久八幡神社例大祭、仲町通り阿波踊り大会、元三島神社神幸祭、熊野前サンバカーニバル)を常時配信していたが、21年度に主要5イベントに一本化(ダイジェスト版を作成)した。 ○都電荒川線花見どころサイトは、産業HPで運営していたが、産業HPの廃止に伴い、27年度に区HPへ統合した。 ○Twitterは28年4月1日を以て広報課アカウントと統合した。						
必要性	多様な情報発信により区のイメージアップ及び来訪者の増加が期待できる。						
実施方法	(二部委託) (直営の場合 <input type="radio"/> 常勤 <input type="radio"/> 非常勤 <input type="radio"/> 臨時職員)						
指 標	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		28年度	29年度	30年度	元年度見込み	目標値(8年度)	
	① 観光PR協力所の設置件数(延べ件数)	94	91	92	95	113	
	②						
③							
事務事業の分類		分類についての説明・意見等					
元年度	2年度						
推進	推進	区のイメージアップ及び区外からの誘客を図るため、区内外に向けた、様々な情報発信を工夫する取組みを推進していく。					

予算・決算額等の推移	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度
予算額	1,237	1,338	3,446	3,534	3,610	6,863	12,130
決算額(元年度は見込み)	862	731	3,348	3,227	3,030	5,090	12,130
実績の推移	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度
事項名(元年度は見込み)							
イベントカレンダー	30,000	30,000	30,000	30,000	30,000	30,000	30,000
まちあるきマップ(区単独)	-	100,000	112,000	37,000	75,000	168,000	122,000
まちあるきマップ(他区連携)	67,000	-	60,000	262,000	-	-	-
観光PR協力所設置件数(延べ)	79	85	91	94	91	92	95

予算・決算の内訳								
平成29年度(決算)			平成30年度(決算)			令和元年度(予算)		
節	主な事項	金額(千円)	節	主な事項	金額(千円)	節	主な事項	金額(千円)
需用費	観光PRチラシ作成費ほか	2,602	報償費	まちあるきマップ翻訳確認謝礼	12	報償費	プロポーザル外部委員謝礼	119
委託料	まちあるきマップ作成費ほか	428	需用費	観光PRチラシ作成費ほか	1,220	需用費	観光PRチラシ作成費ほか	214
			委託料	まちあるきマップ作成費ほか	3,819	委託料	まちあるきマップ作成費ほか	11,758
			使用料	イラストレーター利用料	39	使用料	イラストレーター利用料	39

行政コスト計算書	勘定科目			行政収入	勘定科目			
	29年度	30年度	差額		29年度	30年度	差額	
行政費用	給与関係費	5,045	4,916	▲129	地方税	0	0	0
	物件費	3,030	5,078	2,048	国庫支出金	0	0	0
	維持補修費	0	0	0	都支出金	0	1,597	1,597
	扶助費	0	0	0	分担金及び負担金	0	0	0
	補助費等	0	12	12	使用料及び手数料	0	0	0
	減価償却費	0	0	0	その他	0	0	0
	不納欠損・貸倒引当金繰入額	0	0	0	行政収入合計(a)	0	1,597	1,597
	賞与・退職給与引当金繰入額	278	268	▲10	行政収支差額(a)-(b)=(c)	▲8,353	▲8,677	▲324
	その他行政費用	0	0	0	金融収支差額(d)	0	0	0
	行政費用合計(b)	8,353	10,274	1,921	通常収支差額(c)+(d)=(e)	▲8,353	▲8,677	▲324
特別費用(g)	0	0	0	特別収入(f)	0	0	0	
特別収支差額(f)-(g)=(h)	0	0	0	当期収支差額(e)+(h)	▲8,353	▲8,677	▲324	

備考 行政費用では、給与関係費を除くと物件費が主なものであり、主な内訳としては、南千住まちあるきマップの改訂に3,048,480円、都電荒川線沿線及び日暮里まちあるきマップの増刷に1,077,840円かかっている。行政収入では、区市町村観光インフラ整備支援補助金として1,597,000円の収入がある。

- 問題点・課題
- ①区への来訪者を増やすためには区外への情報発信が不可欠となるが、そのためには、新たなツールを積極的に開拓していく必要がある
 - ②オリンピック・パラリンピック開催に伴い、今後増加が予想される外国人観光客に向けた情報発信手段を積極的に確保していく必要がある
 - ③区外へのイベント等の情報発信を強化するため、ポスター等の掲示が可能な協力先(区外の駅や施設等)の開拓の必要がある

問題点・課題の改善策

	平成30年度に取り組む具体的な改善内容	平成30年度に実施した改善内容および評価	令和元年度以降に取り組む具体的な改善内容
①	区外向けの効果的な情報発信手段について引き続き検討する	区外向けの効果的な情報発信手段について検討し、新規のイベント等においても積極的にパンフレットを配布した	区外向けの効果的な情報発信手段について、新しく取り組む観光アプリも含めて引き続き検討する
②	区内駅の観光PRコーナー掲示スペースの更なる有効活用を図るとともに、掲示方法についても改善していく	区内駅の観光PRコーナー掲示スペースの掲示については常に最新の情報を掲示するよう進めた	観光アプリの導入に伴い、区内駅の観光PRコーナー掲示スペースの更なる有効活用を図る
③	観光案内所における外国人をはじめとした旅行者に対する親切できめ細やかな情報発信の方法を検討する	観光案内所等でより親切できめこまやかな対応を行えるように、台湾等からの観光客向けに繁体字のマップの製作を始めた	観光案内所における外国人をはじめとした旅行者に対する様々な方法での情報発信を検討する

他区の実況	(実施 22 区 未実施 0 区 不明 0 区)
-------	--------------------------

況(要旨) 平成24年1定 日暮里駅周辺において、地元と協力して情報発信を進めるべき。
平成28年度決特 海外の有名なブロガーを活用した情報発信を行ってはどうか。

事務事業分析シート（令和元年度）

No1

事務事業コード	06-04-02	戦略プラン	<input checked="" type="checkbox"/> 協働	<input type="checkbox"/> 業務	<input type="checkbox"/> 財務	<input type="checkbox"/> 人事		
事務事業名	荒川区観光大使PR事業	部課名	産業経済部観光振興課	課長名	石崎			
		担当者名	本宮	内線	461			
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（元年度）	01-01-02	荒川区観光大使PR事業						
事務事業の種類	<input type="checkbox"/> 新規事業（ <input type="checkbox"/> 元年度 <input type="checkbox"/> 30年度）		<input type="checkbox"/> 建設事業		<input checked="" type="checkbox"/> それ以外の継続事業			
開始年度	<input type="checkbox"/> 昭和 <input checked="" type="checkbox"/> 平成 <input type="checkbox"/> 令和 18 年度	根拠	荒川区観光大使設置要綱					
終期設定	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	年度	法令等					
実施基準	<input type="checkbox"/> 法令基準内	<input type="checkbox"/> 都基準内	<input checked="" type="checkbox"/> 区独自基準	計画区分	<input type="checkbox"/> 計画	<input checked="" type="checkbox"/> 非計画		
行政評価事業体系	分野	Ⅲ	産業革新都市					
	政策	06	人が集う魅力あるまちの形成					
	施策	02	受入体制の充実と観光情報の発信					
目的	「荒川区観光大使」によるPR活動により区のイメージアップを図る。							
対象者等	荒川区在住又は出身者で、区に愛着を持ち、区の魅力を積極的に紹介していただける著名人 区民、区外の人々及び来訪者							
内容	(観光大使) 城戸真亜子（洋画家）、三遊亭好楽（落語家）、井崎脩五郎（競馬評論家・タレント）、片岡鶴太郎（俳優・画家）の4名 ①区の最新情報（旬な話題、観光イベント情報、観光パンフ等）を随時提供。 ②観光大使用PR物品を作成し、それぞれの立場において機会のあるごとに荒川区をPRしてもらう（名刺、都電荒川線ポストカード等） ③区長と観光大使との対談を実施し、対談内容をケーブルテレビやホームページ等で情報発信する。							
経過	平成19年度 観光大使が区の魅力を紹介する「私の大好きなまち」作成(23年度改訂) 平成21年度 区長との意見交換会を実施(城戸氏、好楽氏、井崎氏が出席) 平成22年度 区長との意見交換会を実施(好楽氏、井崎氏が出席) 平成28年度 観光大使名刺提示による特典の拡大(区施設(あらかわ遊園、荒川ふるさと文化館)の利用料無償化)							
必要性	著名人の協力による幅広い人脈やネットワークを活かし、区の知名度及びイメージの向上を効果的に図ることができる。							
実施方法	(1直営) (直営の場合 <input checked="" type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤 <input type="checkbox"/> 臨時職員)							
指 標	事務事業の成果とする指標名		指標の推移				指標に関する説明	
			28年度	29年度	30年度	元年度見込み		目標値(8年度)
	①	区長との対談(回)	0	0	0	1	1	
	②							
③								
事務事業の分類		分類についての説明・意見等						
元年度	2年度	観光大使のPR力を活用し、引き続き区の魅力を発信していく。						
継続	継続							

予算・決算額等の推移		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度
予算額		236	192	166	126	136	130	146
決算額（元年度は見込み）		10	91	47	43	74	59	146
実績の推移		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度
事項名（元年度は見込み）								
観光大使任命(人)		0	0	0	0	0	0	0
区長との対談(回)		0	0	0	0	0	0	1
PR活動(名刺等作成)(枚)		-	2,000	2,000	2,000	-	2,000	2,000
あらかわの魅力伝え隊		0	0	0	0	0	0	0
予算・決算の内訳								
平成29年度（決算）			平成30年度（決算）			令和元年度（予算）		
節	主な事項	金額(千円)	節	主な事項	金額(千円)	節	主な事項	金額(千円)
需用費	大使PR物品購入費ほか	74	需用費	大使PR物品購入費ほか	59	需用費	大使PR物品購入費ほか	127
						使用料	会食会場使用料	19

行政コスト計算書	勘定科目			行政収入	勘定科目			
	29年度	30年度	差額		29年度	30年度	差額	
行政費用	給与関係費	1,514	983	▲ 531	地方税	0	0	0
	物件費	74	59	▲ 15	国庫支出金	0	0	0
	維持補修費	0	0	0	都支出金	0	0	0
	扶助費	0	0	0	分担金及び負担金	0	0	0
	補助費等	0	0	0	使用料及び手数料	0	0	0
	減価償却費	0	0	0	その他	0	0	0
	不納欠損・貸倒引当金繰入額	0	0	0	行政収入合計(a)	0	0	0
	賞与・退職給与引当金繰入額	83	54	▲ 29	行政収支差額(a)-(b)=(c)	▲ 1,671	▲ 1,096	575
	その他行政費用	0	0	0	金融収支差額(d)	0	0	0
	行政費用合計(b)	1,671	1,096	▲ 575	通常収支差額(c)+(d)=(e)	▲ 1,671	▲ 1,096	575
特別費用(g)	0	0	0	特別収入(f)	0	0	0	
特別収支差額(f)-(g)=(h)	0	0	0	当期収支差額(e)+(h)	▲ 1,671	▲ 1,096	575	

備考 行政費用では、給与関係費を除くと物件費が主なものであり、主な内訳としては、観光大使の名刺作成に59,400円かかっている。

問題点・課題 観光大使に荒川区の魅力をPRしてもらうため、区の最新動向などを定期的なきめ細かく情報提供していく必要がある。

問題点・課題の改善策

	平成30年度に取り組む具体的な改善内容	平成30年度に実施した改善内容および評価	令和元年度以降に取り組む具体的な改善内容
①	定期報告については、観光大使に関心を持ってもらえるよう旬な話題を工夫をしながら提供していく	定期報告については、観光大使に関心を持ってもらえるよう旬な話題をより多く提供していく	定期報告については、観光大使に関心を持ってもらえるよう「荒川区の今」を工夫をしながら提供していく
②			
③			

他区の実況	(実施 8 区 未実施 14 区 不明 0 区)
	中央区(ミス中央)3人、台東区(たいとう観光大使)22人、豊島区(ソメイヨシノ桜の観光大使)3人、大田区(大田区観光PR特使)16人、渋谷区(スポーツアンバサダー、ナイトアンバサダー等)18人、北区(北区アンバサダー)5人、墨田区(すみだ親善大使)3人、葛飾区(かつしか観光大使)2人

況(要旨) 平成27年度予特 著名人ではなく、一般の方による区の魅力発信を行ってはどうか。
 平成27年度予特 観光大使の増員について
 平成29年度予特 一般公募の大使等、他自治体の実状も含めて研究してみてもどうか。

事務事業分析シート（令和元年度）

No1

事務事業コード	06-04-03	戦略プラン	<input checked="" type="checkbox"/> 協働	<input type="checkbox"/> 業務	<input type="checkbox"/> 財務	<input type="checkbox"/> 人事		
事務事業名	産業観光推進事業	部課名	産業経済部観光振興課	課長名	石崎			
		担当者名	木村	内線	461			
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（元年度）	01-02-01	産業観光推進事業						
事務事業の種類	<input type="checkbox"/> 新規事業（ <input type="checkbox"/> 元年度 <input type="checkbox"/> 30年度）		<input type="checkbox"/> 建設事業		<input checked="" type="checkbox"/> それ以外の継続事業			
開始年度	<input type="checkbox"/> 昭和 <input checked="" type="checkbox"/> 平成 <input type="checkbox"/> 令和 14 年度	根拠	荒川区モノづくり見学・体験スポット整備支援					
終期設定	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	年度	法令等	事業要綱				
実施基準	<input type="checkbox"/> 法令基準内 <input type="checkbox"/> 都基準内 <input checked="" type="checkbox"/> 区独自基準		計画区分	<input checked="" type="checkbox"/> 計画 <input type="checkbox"/> 非計画				
行政評価事業体系	分野	Ⅲ	産業革新都市					
	政策	06	人が集う魅力あるまちの形成					
	施策	01	観光資源の発掘とにぎわいの創出					
目的	荒川区の産業技術や伝統工芸技術、区内で製造・販売されている優れた商品の紹介とPR、そしてモノづくり見学・体験スポットを通じて、モノづくりの街あらかわのイメージアップと産業観光を推進する。							
対象者等	商品の製造、販売事業者 区民、区外の人々及び来訪者							
内容	<p>【モノづくり見学・体験スポット整備支援事業】 工房等を一般公開する者をスポット（以下、「モノスポ」）として認定し、必要に応じて改修等の費用を補助。2/3補助（上限100万円）うち、1/2は都補助あり（30年度認定1件（累計32件）内訳：認定39件、廃止・休止7件）。</p> <p>【あらかわモノスポ】 区外にて行うモノスポPRイベント。平成23年度より年1回。</p> <p>【モノスポツアー】 モノスポを公用車で巡るツアー。平成27年度より、年10コース程度。</p> <p>【荒川ブランドPRイベント】 荒川区伝統工芸職人・荒川マイスターのPRイベント ・「荒川ブランド」商品を紹介する冊子の作成・配布 ・観光PRコーナーの設置（おすすめ品の販売等）あらかわの伝統技術展等、年10回程度</p>							
経過	<p>平成19年度 モノづくり見学・体験スポット整備支援事業開始 平成20年度 ①都電ウォークラリーを分離し、単独事業へ。 ②荒川ブランドセールスプロモーション事業を統合。 ③伝統技術展を経営支援課へ移管。 平成23年度 「駅からハイキング関連事業補助」経費を観光イベント助成へ組み替え</p> <p>【「荒川ブランド」紹介冊子の内容】 ①「荒川のおすすめ品 区民が選んだおみやげ編Part1」平成17年度発行 ②「伝統工芸品・荒川マイスター製品編」平成18・20・22・25・28年度改訂 （伝統工芸品45商品/49名＋荒川マイスター製品22商品/22名＋リストのみ17名＝計67商品/88名） ※同一屋号の方は連名にて掲載するため、商品数と人数が異なる場合がある。</p>							
必要性	モノづくりの街荒川の地域資源を活かし産業観光を推進することで、地域産業の活性化を促進するために必要である。							
実施方法	（ <input type="checkbox"/> 一部委託 <input checked="" type="checkbox"/> ） （直営の場合 <input type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤 <input type="checkbox"/> 臨時職員）							
指 標	事務事業の成果とする指標名		指標の推移				指標に関する説明	
			28年度	29年度	30年度	元年度見込み		目標値(8年度)
	①	イベント会場での実演・展示・販売等実施件数	11	10	11	8	15	
	②	モノづくり見学・体験スポットの件数	30	31	32	33	50	数値は累計
③	モノづくり見学・体験スポットの年間来訪者数	15548	18936	16394	20000	20000	27年度認定の事業者により、28年度以降、来訪者数が増加。	
事務事業の分類		分類についての説明・意見等						
元年度	2年度							
推進	推進	モノづくりのまち荒川を区内外に向け、広く周知するため、モノづくり見学・体験スポットの拡大とPRの充実を推進していく。						

予算・決算額等の推移		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度
予算額		5,010	4,776	5,560	6,273	5,361	7,539	8,005
決算額（元年度は見込み）		4,393	3,706	3,016	4,312	2,877	4,362	8,005
実績の推移		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度
事項名（元年度は見込み）								
PR事業（回）		14	17	14	11	10	11	11
内、ブランドPRイベント（回）		12	14	11	8	7	8	8
商品紹介冊子作成（部）		25,000	-	-	25,000	-	-	-
モノづくり見学体験スポット		7	3	4	3	2	2	2
予算・決算の内訳								
平成29年度（決算）			平成30年度（決算）			令和元年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
報償費	観光振興イベント報償費ほか	62	報償費	通訳謝礼	24	報償費	イベント報償費、通訳謝礼	149
旅費	観光振興イベント報償費ほか	164	需用費	ガイド作成	1,299	旅費	他自治体へのイベント出展	110
需用費	荒川ブランドPR用消耗品	967	役務費	運送料、保険料	107	需用費	消耗品、ツアー用お買物券	60
役務費	行事保険（モノスポツアー）	2	委託料	会場設営費	1,950	役務費	運送料、行事保険、動産保険	188
委託料	イベント会場設営費ほか	1,055	使用料等	会場使用料	984	委託料	会場設営、チラシ作成ほか	4,423
使用料等	あらかわモノスポ2017使用料	209				使用料等	会場使用料	1,075
負担金補助等	モノスポ整備補助金	421				負担金補助等	モノスポ整備補助金	2,000

行政コスト計算書	勘定科目				行政収入	勘定科目			
	29年度	30年度	差額	29年度		30年度	差額		
	給与関係費	8,073	7,866	▲ 207	地方税	0	0	0	
	物件費	2,393	4,316	1,923	国庫支出金	0	0	0	
	維持補修費	0	0	0	都支出金	1,028	1,830	802	
	扶助費	0	0	0	分担金及び負担金	0	0	0	
	補助費等	484	46	▲ 438	使用料及び手数料	0	0	0	
	減価償却費	0	0	0	その他	0	0	0	
	不納欠損・貸倒引当金繰入額	0	0	0	行政収入合計(a)	1,028	1,830	802	
	賞与・退職給与引当金繰入額	445	429	▲ 16	行政収支差額(a)-(b)=(c)	▲ 10,367	▲ 10,827	▲ 460	
	その他行政費用	0	0	0	金融収支差額(d)	0	0	0	
	行政費用合計(b)	11,395	12,657	1,262	通常収支差額(c)+(d)=(e)	▲ 10,367	▲ 10,827	▲ 460	
	特別費用(g)	0	0	0	特別収入(f)	0	0	0	
	特別収支差額(f)-(g)=(h)	0	0	0	当期収支差額(e)+(h)	▲ 10,367	▲ 10,827	▲ 460	

備考 行政費用では、給与関係費を除くと物件費が主なものであり、主な内訳としては、イベント会場設営費として1,476,0364円、イベント会場使用料として983,880円かかっている。行政収入では、東京の多様性を活かした観光まちづくり推進事業補助金として1,830,000円の収入がある。

- 問題点・課題
- ①区民以外にも「モノづくりの街」をPRするため、既存事業の広報について検討する必要がある。
 - ②モノスポとして認定し得る製造業者が飽和状態にあるため、スポットを拡充する手段を検討する必要がある。
 - ③外国人観光客を受け入れることができる体制整備を行う必要がある。

問題点・課題の改善策

	平成30年度に取り組む具体的な改善内容	平成30年度に実施した改善内容および評価	令和元年度以降に取り組む具体的な改善内容
①	外国人向けツアーを実施し実施回数の増加や満足度向上につながるよう努める。	外国人向けツアーを実施できるだけの準備が整っておらず30年度については実現できなかった。	ツアーの組合せや周知方法を検討し外国人に限らず新たな方に参加していただけるよう努める。
②	荒川ブランドPRイベントの実施にあたり、より効果的なPRに繋がるよう、施設管理者や出展事業者と調整を図る。	新たな会場（浅草・まるごとにつぼん）でイベントを実施し、来場者数等から見てこれまで以上に広く荒川ブランドをPRした。	実施結果を元に今回行った場所でイベントを継続するか否かも含め、より良い実施場所を検討する。
③	各スポットを紹介する冊子の新たな配布先を開拓すると共に、外国人観光客向けスポットの整備及び広報について検討を進める。	外国人観光客向けスポットの整備について、具体的に検討した。	実現可能な整備方法を今後も引き続き検討する。

他区の実況	（実施 5 区 未実施 15 区 不明 2 区）			
		東京の多様性を活かした観光まちづくり推進支援事業活用区：台東区（中小製造業アトリエ化支援事業）その他関連事業実施区：墨田区（すみだモダンブランド認証事業、すみだファクトリーめぐり）、大田区（おたオープンファクトリー）、江東区（江東ブランド推進事業）、足立区（足立ブランド事業）		

況 議 平成17年2定 産業観光の視点で、姉妹友好都市交流をするべき。

議 会 質 問 状

事務事業分析シート（令和元年度）

No1

事務事業コード	06-04-04	戦略プラン	<input checked="" type="radio"/> 協働	<input type="radio"/> 業務	<input type="radio"/> 財務	<input type="radio"/> 人事		
事務事業名	観光イベント支援事業	部課名	産業経済部観光振興課	課長名	石崎			
		担当者名	池野	内線	461			
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（元年度）	01-03-01	川の手荒川まつり事業						
	01-03-02	観光イベント助成費						
	01-03-03	隅田川花火大会事業費						
事務事業の種類	<input type="radio"/> 新規事業（ <input type="radio"/> 元年度 <input type="radio"/> 30年度）		<input type="radio"/> 建設事業		<input checked="" type="radio"/> それ以外の継続事業			
開始年度	<input checked="" type="radio"/> 昭和 <input type="radio"/> 平成	令和 62 年度	根拠	川の手荒川祭り実行委員会実施事業補助金交付				
終期設定	<input type="radio"/> 有 <input checked="" type="radio"/> 無		年度	法令等	要綱、荒川区観光振興事業補助金交付要綱			
実施基準	<input type="radio"/> 法令基準内 <input type="radio"/> 都基準内 <input checked="" type="radio"/> 区独自基準		計画区分	<input checked="" type="radio"/> 計画 <input type="radio"/> 非計画				
行政評価事業体系	分野	Ⅲ	産業革新都市					
	政策	06	人が集う魅力あるまちの形成					
	施策	01	観光資源の発掘とにぎわいの創出					
目的	区民等の開催する観光事業を支援し、区民とともに観光資源を育成する。							
対象者等	区民主体の民間団体 区民、区外の人々及び来訪者							
内容	<p>1 川の手荒川まつり実行委員会補助 28年度(汐入公園)12,340千円、29年度(南千住野球場)12,312千円、30年度(汐入公園)15,551千円</p> <p>2 観光振興事業補助等 30年度 6件 855千円（「まちの駅七福神めぐりウォークラリー」44千円、「秋の七草と鳴く虫の会」50千円、「あらかわハロウィン2018」50千円、「日暮里富士見坂写真展」50千円、「駅からハイキング」37千円、「にっぽり電車まつり」624千円）</p> <p>3 隅田川花火大会実行委員会への負担金 ・26年度150万円 ・27年度150万円 ・28年度150万円 ・29年度180万円 ・30年度150万円 ・元年度165万円</p>							
経過	<p>○川の手荒川まつり 昭和62年以来、（計5回を除き）毎年4月29日（祝）に実施。17年の実行委員会において開催場所を南千住野球場、東尾久運動場、荒川遊園運動場、汐入公園で開催することをルール化した。27年度安全面、ブース確保の問題から荒川遊園を除外し、3会場で実施することを決定した。</p> <p>○平成23年度 ・「駅からハイキング関連事業補助」経費を産業観光推進事業から組み替え。 ・「シダレザクラ祭り補助金」が公園緑地課に移管。</p> <p>○駅からハイキングにおける商店街PRのための補助 21～24年度、27年度、29年度、30年度(1団体)：駅からハイキング(JR東日本)(単年度要綱にて助成、29年度より通年度要綱作成)、25、26年度は、JRの実施方法変更のため補助なし。28、29、30年度(1団体)は商店街連携支援補助を活用し実施。</p>							
必要性	区民・地域団体等が実施するイベントを支援することで、より多くの集客の機会を創出することが期待出来る。							
実施方法	（ <input type="radio"/> 一部委託） （直営の場合 <input type="radio"/> 常勤 <input type="radio"/> 非常勤 <input type="radio"/> 臨時職員）							
指 標	事務事業の成果とする指標名		指標の推移				指標に関する説明	
			28年度	29年度	30年度	元年度見込み		目標値(8年度)
	①	観光事業補助金申請件数	9	9	6	10	13	日暮里駅前広場活用イベント補助を含む
	②	川の手荒川まつり来場者数(千人)	55	79	50	38	103	
③								
事務事業の分類		分類についての説明・意見等						
元年度	2年度							
推進	推進	区民・事業者の自主的活動は、観光振興による地域の活性化を図る上で欠かせないものであることから、今後も関係団体等に対する支援を推進する。						

予算・決算額等の推移	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度
予算額	14,124	14,095	15,205	18,280	19,082	22,424	25,106
決算額(元年度は見込み)	12,802	12,901	13,903	17,379	18,180	21,087	25,106
実績の推移	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度
事項名(元年度は見込み)							
シダレザクラ祭り参加者(人)	—	9,000	6,500	9,000	11,000	12,000	15000
事業補助金(日暮里イベント含む)	3	9	9	9	9	6	10
川の手荒川まつり来場者(人)	70,000	72,000	78,000	55,000	79,000	50,000	38,000
川の手荒川まつり参加団体	132	137	127	127	131	129	129

予算・決算の内訳								
平成29年度(決算)			平成30年度(決算)			令和元年度(予算)		
節	主な事項	金額(千円)	節	主な事項	金額(千円)	節	主な事項	金額(千円)
職員手当等	時間外手当(川の手荒川まつり)	204	職員手当等	時間外手当(川の手荒川まつり)	197	職員手当等	時間外手当(川の手荒川まつり)	254
職員手当等	時間外手当(隅田川花火大会)	276	職員手当等	時間外手当(隅田川花火大会)	286	職員手当等	時間外手当(隅田川花火大会)	317
賃金	臨時職員(川の手荒川まつり)	578	賃金	臨時職員(川の手荒川まつり)	293	賃金	臨時職員(川の手荒川まつり)	620
需用費	隅田川花火大会用消耗品	94	需用費	隅田川花火大会用消耗品	72	需用費	隅田川花火大会用消耗品	100
委託料	隅田川花火大会テント等設営費ほか	1,810	委託料	隅田川花火大会テント等設営費ほか	2,335	委託料	隅田川花火大会テント等設営費ほか	2,755
負担金補助等	隅田川花火大会分担金・観光振興補助金ほか	2,834	負担金補助等	隅田川花火大会分担金・観光振興補助金ほか	2,355	負担金補助等	隅田川花火大会分担金・観光振興補助金ほか	3,235
負担金補助等	川の手荒川まつり補助金	12,312	負担金補助等	川の手荒川まつり補助金	15,551	負担金補助等	川の手荒川まつり補助金	17,825

行政コスト計算書	勘定科目				行政収入	勘定科目			
	29年度	30年度	差額	29年度		30年度	差額		
行政費用	給与関係費	12,083	12,772	689	地方税	0	0	0	
	物件費	2,556	2,700	144	国庫支出金	6,156	7,775	1,619	
	維持補修費	0	0	0	都支出金	0	0	0	
	扶助費	0	0	0	分担金及び負担金	0	0	0	
	補助費等	15,146	17,906	2,760	使用料及び手数料	0	0	0	
	減価償却費	0	0	0	その他	0	0	0	
	不納欠損・貸倒引当金繰入額	0	0	0	行政収入合計(a)	6,156	7,775	1,619	
	賞与・退職給与引当金繰入額	640	671	31	行政収支差額(a)-(b)=(c)	▲ 24,269	▲ 26,274	▲ 2,005	
	その他行政費用	0	0	0	金融収支差額(d)	0	0	0	
	行政費用合計(b)	30,425	34,049	3,624	通常収支差額(c)+(d)=(e)	▲ 24,269	▲ 26,274	▲ 2,005	
特別費用(g)	0	0	0	特別収入(f)	0	0	0		
特別収支差額(f)-(g)=(h)	0	0	0	当期収支差額(e)+(h)	▲ 24,269	▲ 26,274	▲ 2,005		

備考 行政費用では、給与関係費を除くと補助費等が主なものであり、主な内訳としては、川の手荒川まつり補助金として15,550,823円、隅田川花火大会実行委員会負担金として1,500,000円かかっている。行政収入では、地方創生推進交付金として7,775,411円の収入がある。

問題点・課題 ①川の手荒川まつりの開催会場については、安全面や会場のキャパシティの面から、27年度に見直しを行い、今後3会場でのローテーション開催としたが、引き続き状況を注視していく必要がある
②隅田川花火大会については、区内の観覧場所となる汐入地域において、実行委員会として関係機関と調整しさらなる安全対策を万全に図らねばならない。また、臨時ゴミ集積所の増設、地元商店街等と連携したにぎわい創出についての検討も必要である

問題点・課題の改善策			
	平成30年度に取り組む具体的な改善内容	平成30年度に実施した改善内容および評価	令和元年度以降に取り組む具体的な改善内容
①	30年度は会場が広域となるため、会場内外の警備員を増員し、安全対策を強化する(川の手荒川まつり)	周辺交差点などに警備員を配置し、来場者の安全確保を行った(川の手荒川まつり)	来場者の安全を確保するため、30年度の状況を整理し、改善点の対応を行う(川の手荒川まつり)
②	汐入地域を訪れる観覧客の更なる安全を考慮し、29年度よりも警備員を増員して配置する(隅田川花火大会)	警備員を増員し、適所に配置することで観覧客の安全確保を行った(隅田川花火大会)	観覧客の安全を確保するため、30年度の状況を整理し、改善点の対応を行う(隅田川花火大会)
③			

他区の実況	(実施 0 区 未実施 22 区 不明 0 区)
-------	--------------------------

議会質問(要旨) 平成14年3定 都電沿線の文化祭における区及び地元商店街の関わり方について
平成16年1定 沿線商店街と連携した都電乗客サービスの提供と路面電車サミットの開催について
平成17年2定 日暮里・舎人線の開通に合わせて、イベントを開催してはどうか。
平成27年度決特 人が集まる隅田川花火大会を観光振興や商業振興に活用すべきと考えるが区の見解は。
平成27年度予特 観光資源としての富士見坂の活用について

事務事業分析シート（令和元年度）

No1

事務事業コード	06-04-05	戦略プラン	<input checked="" type="radio"/> 協働	<input type="radio"/> 業務	<input type="radio"/> 財務	<input type="radio"/> 人事	
事務事業名	観光振興懇談会運営費	部課名	産業経済部観光振興課	課長名	石崎		
		担当者名	本宮	内線	461		
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（元年度）	01-04-01	観光振興懇談会運営費					
事務事業の種類	<input type="radio"/> 新規事業（ <input type="radio"/> 元年度 <input type="radio"/> 30年度）		<input type="radio"/> 建設事業		<input checked="" type="radio"/> それ以外の継続事業		
開始年度	<input type="radio"/> 昭和 <input checked="" type="radio"/> 平成 <input type="radio"/> 令和 18 年度	根拠	荒川区観光振興懇談会設置要綱				
終期設定	<input type="radio"/> 有 <input checked="" type="radio"/> 無	法令等					
実施基準	<input type="radio"/> 法令基準内 <input type="radio"/> 都基準内 <input checked="" type="radio"/> 区独自基準		計画区分	<input checked="" type="radio"/> 計画 <input type="radio"/> 非計画			
行政評価事業体系	分野	Ⅲ	産業革新都市				
	政策	06	人が集う魅力あるまちの形成				
	施策	02	受入体制の充実と観光情報の発信				
目的	観光に関する様々な分野の有識者で構成する懇談会を開催し、区の観光振興の目指すべき方向とその実現のために必要な具体的施策等について検討を行う。懇談会の提言に基づき、区の観光振興施策の効果的な推進を図る。						
対象者等	学識経験者、観光関係団体、観光・交通事業者、産業団体関係者等						
内容	<p>【平成30年度】実施事業の報告、区内観光関連事業者等からのヒアリング</p> <p>【平成29年度】実施事業の報告、今後の荒川区の観光施策（太田道灌）</p> <p>【平成28年度】実施事業の報告、今後の観光施策の課題</p> <p>【平成27年度】区内の観光及び観光資源の現状、前回報告書提言内容の実施状況 観光振興施策の今後の方向性及び具体的施策 ※2020年の東京オリンピック・パラリンピックの開催を見据えてさらなる誘客を図るため、新たな観光振興懇談会報告書を作成。</p> <p>【平成19～22年度】18年度の調査報告書、懇談会提言に基づく区の観光施策の実施状況やその他の社会情勢変化に伴う見直し等の検討・検証</p>						
経過	<p>【平成18年度】様々な分野の有識者で構成する観光振興懇談会を5回開催し、観光振興の目指すべき方向性と具体的施策について検討し、提言を報告書としてまとめた。</p> <p>【平成19年度から平成22年度】18年度の調査報告書、懇談会報告書の提言に基づく区の観光施策の実施状況やその他の社会情勢変化に伴う見直し等の検討・検証（19年2回、20年3回、21年1回、22年1回）</p> <p>【平成24年度】観光事業コンサルタントによる講演会、質疑応答、意見交換である研究会を1回実施 ※平成23年度、25年度、26年度は未実施</p> <p>【平成27年度】荒川区観光振興懇談会を3回行い、座長から区長へ報告書手交実施</p> <p>【平成28年度】荒川区観光振興懇談会を1回実施</p> <p>【平成29年度】荒川区観光振興懇談会を2回実施</p> <p>【平成30年度】荒川区観光振興懇談会を1回実施</p>						
必要性	専門家からの提言・助言を活かすことで、より効果的に区の観光振興施策を推進していくことが期待出来る。						
実施方法	（1直営）（直営の場合 <input checked="" type="radio"/> 常勤 <input type="radio"/> 非常勤 <input type="radio"/> 臨時職員）						
指標	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		28年度	29年度	30年度	元年度見込み	目標値(8年度)	
	① 懇談会の開催(回)	1	2	1	2	2	
	②						
③							
事務事業の分類		分類についての説明・意見等					
元年度	2年度						
継続	継続	有識者や関係団体の意見をより実践的・具体的に施策に反映するため、引き続き、懇談会等を開催し、今後の計画づくりに活用していく。					

予算・決算額等の推移		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度
予算額		189	149	743	318	300	248	248
決算額（元年度は見込み）		0	0	373	63	128	60	248
実績の推移		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度
事項名（元年度は見込み）								
観光基礎調査		-	-	-	-	-	-	-
懇談会(回)		-	-	3	1	2	1	2
懇談会専門部会(回)		-	-	-	-	-	-	-
研究会(回)		-	-	-	-	-	-	-
予算・決算の内訳								
平成29年度（決算）			平成30年度（決算）			令和元年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
報償費	懇談会委員謝礼等	115	報償費	懇談会委員謝礼等	56	報償費	懇談会委員謝礼等	205
需用費	懇談会賄い等	13	需用費	懇談会賄い等	4	需用費	懇談会賄い等	43

行政コスト計算書	勘定科目		29年度	30年度	差額	行政収入	勘定科目		29年度	30年度	差額
	給与関係費		2,523	1,475	▲ 1,048		地方税		0	0	0
物件費		13	4	▲ 9	国庫支出金		0	0	0		
維持補修費		0	0	0	都支出金		0	0	0		
扶助費		0	0	0	分担金及び負担金		0	0	0		
補助費等		114	56	▲ 58	使用料及び手数料		0	0	0		
減価償却費		0	0	0	その他		0	0	0		
不納欠損・貸倒引当金繰入額		0	0	0	行政収入合計(a)		0	0	0		
賞与・退職給与引当金繰入額		139	80	▲ 59	行政収支差額(a)-(b)=(c)		▲ 2,789	▲ 1,615	1,174		
その他行政費用		0	0	0	金融収支差額(d)		0	0	0		
行政費用合計(b)		2,789	1,615	▲ 1,174	通常収支差額(c)+(d)=(e)		▲ 2,789	▲ 1,615	1,174		
特別費用(g)		0	0	0	特別収入(f)		0	0	0		
特別収支差額(f)-(g)=(h)		0	0	0	当期収支差額(e)+(h)		▲ 2,789	▲ 1,615	1,174		

備考

行政費用では、給与関係費を除くと補助費等が主なものであり、主な内訳としては、観光振興懇談会委員への報償費として55,544円かかっている。

問題点・課題

平成27年度に作成した「荒川区観光振興懇談会報告書」により、地域経済・産業の活性化、住民の地域に対する誇りの高揚や来訪者との交流による地域活性化を図り、「人が集う魅力あるまちの形成」を目指すことを確認した。
2020年に開催するオリンピック・パラリンピックに向け、来訪する外国人向けの観光振興を行い、おもてなしの体制を作る必要がある。また、地域活性化の観点から区内の事業者や地域団体との連携を強化し、相乗効果を狙う取組が求められている。

問題点・課題の改善策

	平成30年度に取り組む具体的な改善内容	平成30年度に実施した改善内容および評価	令和元年度以降に取り組む具体的な改善内容
①	東京2020オリンピック・パラリンピックの開催に向けて、区として取り組むべき観光施策についてアドバイス等をいただく	区の観光施策の参考として、区内の観光関係団体を招き委員との意見交換を行った	引続き、東京2020オリンピック・パラリンピックに向けて、区の観光施策についてアドバイス等をいただく
②			
③			

他区の実況	(実施 0 区 未実施 22 区 不明 0 区)
-------	--------------------------

議会要旨
平成29年度11月会議 荒川区観光協会の設立に向けて、区内各団体同士の協議の場を設定し、設立に向けて働きかけるべきと考えて欲しい。
平成26年度予特 2020年の東京オリンピックまでに、観光客誘客のための戦略を示して欲しい。

事務事業分析シート（令和元年度）

No1

事務事業コード	06-04-06	戦略プラン	<input checked="" type="checkbox"/> 協働	<input type="checkbox"/> 業務	<input type="checkbox"/> 財務	<input type="checkbox"/> 人事		
事務事業名	都電荒川線活用事業	部課名	産業経済部観光振興課	課長名	石崎			
		担当者名	木村	内線	461			
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（元年度）	01-02-02	都電荒川線活用事業						
事務事業の種類	<input type="checkbox"/> 新規事業（ <input type="checkbox"/> 元年度 <input type="checkbox"/> 30年度）		<input type="checkbox"/> 建設事業		<input checked="" type="checkbox"/> それ以外の継続事業			
開始年度	<input type="checkbox"/> 昭和 <input checked="" type="checkbox"/> 平成 <input type="checkbox"/> 令和	19年度	根拠					
終期設定	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	年度	法令等					
実施基準	<input type="checkbox"/> 法令基準内 <input type="checkbox"/> 都基準内 <input checked="" type="checkbox"/> 区独自基準		計画区分	<input checked="" type="checkbox"/> 計画 <input type="checkbox"/> 非計画				
行政評価事業体系	分野	Ⅲ	産業革新都市					
	政策	06	人が集う魅力あるまちの形成					
	施策	01	観光資源の発掘とにぎわいの創出					
目的	区の観光資源である都電荒川線を活用し、区外からの観光客を呼び込む。区内商店街や都電沿線区（北区、豊島区、新宿区）、東京都（交通局）と連携したイベント等の実施や、特別号の運行により、一層の知名度及びイメージの向上を図る。							
対象者等	区民、区外の人々及び来訪者							
内容	<p>【都電荒川線沿線4区地域活性化協議会事業】（平成24年度に協議会設立）</p> <ul style="list-style-type: none"> 都電荒川線沿線絵画コンテスト(23、24年度) 都電荒川線沿線スタンプラリー(25年度～) <p>平成28年実績：8月1日（月）～9月25日（日）に実施、商品応募数1,944人 平成29年実績：8月1日（火）～9月24日（日）に実施、商品応募数1,834人 平成30年実績：8月1日（水）～9月24日（月）に実施、商品応募数1,670人</p> <p>【都電特別号の運行】平成24年～ バラ号(5月)、ハロウィン号(10月)、さくら号(3～4月)、おもいで号（平成26年10月）</p> <p>【ラッピング都電の運行】平成27年度：俳句のまちPRラッピング都電（11月～） 【都電DE俳句】29年度：第1回：平成30年11月29日・14名参加、第2回：31年3月12日・15名参加</p>							
経過	<p>平成19年度 「都電荒川線ウォークラリー」</p> <ul style="list-style-type: none"> 都電荒川線をPRするとともに、沿線の魅力を多くの人に伝えるため、北区との共催により実施。 <p>平成23年度 「都電荒川線100周年記念事業」</p> <ul style="list-style-type: none"> 荒川区主催事業：都電100周年荒川区観光ツアー、都電100周年企画展（ふるさと文化館）など 記念事業実行委員会主催事業（荒川区、北区、豊島区、新宿区及び都交通局）：都電サミット、都電荒川線沿線絵画コンテスト、花電車の運行、特設HP開設 <p>平成25年度：都電荒川線沿線4区地域活性化協議会による「都電荒川線スタンプラリー」を実施 平成27年度：都電1台に俳句のまちPRラッピングを実施、ラッピング都電を活用した俳句講座を実施 平成28年度～30年度：あらかわ遊園水辺フェスタで都電を活用したイベント(マジックショー)を実施 平成30年度：俳句のまちPRラッピングのデザイン更新</p>							
必要性	区の観光資源である都電荒川線を活用したイベント開催や話題づくりにより、区のイメージアップやPRにとどまらず商店街をはじめとした地域の活性化に繋がることが期待出来る。							
実施方法	(1直営) (直営の場合 <input checked="" type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤 <input type="checkbox"/> 臨時職員)							
指 標	事務事業の成果とする指標名		指標の推移				指標に関する説明	
			28年度	29年度	30年度	元年度見込み		目標値(8年度)
	①	都電荒川線沿線スタンプラリー参加者数(人)	1,944	1,834	1,670	2,200	2,800	賞品応募者数
	②							
③								
事務事業の分類		分類についての説明・意見等						
元年度	2年度							
継続	継続	沿線3区及び東京都交通局等と連携のうえ、荒川区の観光資源を活用し、都電荒川線沿線地域全体の活性化を図るため、取組みを継続していく。						

予算・決算額等の推移		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度
予算額		502	193	190	216	100	192	196
決算額（元年度は見込み）		74	30	20	150	41	128	196
実績の推移	事項名（元年度は見込み）	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度
	都電荒川線沿線スタンプラリー（参加者数）	1,377	2,003	1,866	1,944	1,834	1,670	2,000
予算・決算の内訳								
平成29年度（決算）			平成30年度（決算）			令和元年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
需用費	スタンプラリー景品ほか	41	需用費	スタンプラリー景品ほか	128	需用費	スタンプラリー景品ほか	196

行政コスト計算書	勘定科目		29年度	30年度	差額	行政収入	勘定科目		29年度	30年度	差額
	行政費用	給与関係費	3,027	2,950	▲ 77		地方税	0	0	0	0
	物件費	41	128	87	国庫支出金	0	0	0	0	0	
	維持補修費	0	0	0	都支出金	0	0	0	0	0	
	扶助費	0	0	0	分担金及び負担金	0	0	0	0	0	
	補助費等	0	0	0	使用料及び手数料	0	0	0	0	0	
	減価償却費	0	0	0	その他	0	0	0	0	0	
	不納欠損・貸倒引当金繰入額	0	0	0	行政収入合計(a)	0	0	0	0	0	
	賞与・退職給与引当金繰入額	167	161	▲ 6	行政収支差額(a)-(b)=(c)	▲ 3,235	▲ 3,239	▲ 4	▲ 4	▲ 4	
	その他行政費用	0	0	0	金融収支差額(d)	0	0	0	0	0	
	行政費用合計(b)	3,235	3,239	4	通常収支差額(c)+(d)=(e)	▲ 3,235	▲ 3,239	▲ 4	▲ 4	▲ 4	
	特別費用(g)	0	0	0	特別収入(f)	0	0	0	0	0	
	特別収支差額(f)-(g)=(h)	0	0	0	当期収支差額(e)+(h)	▲ 3,235	▲ 3,239	▲ 4	▲ 4	▲ 4	

備考

行政費用では、給与関係費を除くと物件費が主なものであり、主な内訳としては、都電ハロウィン号用消耗品（ステッカー）購入に99,997円かかっている。

問題点・課題

① イベントでの都電の活用は充実しているが、都電沿線の活性化については引続き沿線3区及び交通局と連携し、各駅の観光スポットや沿線情報を掲示し、都電沿線の利便性等をアピールしていく必要がある。
 ② 俳句・バラ・あらかわ遊園等沿線の魅力を都電と関連付け、「都電の走るまちあらかわ」のイメージを作り、関係機関とも連携し情報発信する必要がある。また、効果的な広報について検討する必要がある。
 ③ 特化したイベントの実施やガイドブックの作成等、外国人観光客に向け更なる魅力発信に努めていく必要がある。

問題点・課題の改善策

	平成30年度に取り組む具体的な改善内容	平成30年度に実施した改善内容および評価	令和元年度以降に取り組む具体的な改善内容
①	29年度の実績を踏まえ、沿線3区及び東京都交通局との連携を密にし、既存事業の更なる強化を図る。	29年度の実績を踏まえ、都電荒川線沿線4区地域活性化協議会で宝探し要素を含んだスタンプラリーを実施した。	30年度の実績を踏まえ、都電荒川線沿線4区地域活性化協議会として既存事業の更なる強化を図る。
②	荒川区を走る都電を印象づけるべく、特殊電車の更なる活用方法について、様々な視点から検討を行う。	荒川区を走る都電を印象づけるため、既存事業の魅力発信について検討した。	荒川区を走る都電を印象づけるべく、特殊電車の更なる活用方法について、様々な視点から検討を行う。
③			

他区の実況	(実施 3 区 未実施 19 区 不明 0 区) ・都電荒川線沿線4区地域活性化協議会に加入
-------	---

議会(要旨)状況	平成18年4定 都電を活用し、荒川区の観光振興を図るべきである。 平成24年3定 都電を活用した地域や交通局、沿線4区との連携等。 平成26年度予特 あらかわ遊園を活用して商店街振興に貢献するような取組みは検討しているか。 平成27年度予特 あらかわ遊園と都電を活用したイベントで地域ににぎわいが期待できるが区の認識は。 平成27年度予特 あらかわ遊園と都電は区の観光資源であるが、それらをどのように活用しているか。
----------	--

事務事業分析シート（令和元年度）

No1

事務事業コード	06-04-07	戦略プラン	<input checked="" type="checkbox"/> 協働	<input type="checkbox"/> 業務	<input type="checkbox"/> 財務	<input type="checkbox"/> 人事		
事務事業名	受入体制整備事業	部課名	産業経済部観光振興課	課長名	石崎			
		担当者名	木村	内線	461			
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（元年度）	01-02-03	受入体制整備事業						
事務事業の種類	<input type="checkbox"/> 新規事業（ <input type="checkbox"/> 元年度 <input type="checkbox"/> 30年度）		<input type="checkbox"/> 建設事業		<input checked="" type="checkbox"/> それ以外の継続事業			
開始年度	<input type="checkbox"/> 昭和 <input checked="" type="checkbox"/> 平成 <input type="checkbox"/> 令和 17 年度	根拠	荒川区外国人来訪者受入体制整備支援事業補助					
終期設定	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 年度	法令等	金交付要綱等					
実施基準	<input type="checkbox"/> 法令基準内 <input checked="" type="checkbox"/> 都基準内 <input type="checkbox"/> 区独自基準		計画区分	<input checked="" type="checkbox"/> 計画 <input type="checkbox"/> 非計画				
行政評価事業体系	分野	Ⅲ	産業革新都市					
	政策	06	人が集う魅力あるまちの形成					
	施策	02	受入体制の充実と観光情報の発信					
目的	観光案内所等を拠点とし、区の魅力を広く情報発信するとともに、来訪者の受入体制を整備するなど、おもてなしの向上を図ることで区の魅力を高め、誘客を促進する。							
対象者等	区民及び観光客、区内の宿泊施設及び飲食店							
内容	<p>【観光案内所の運営】日暮里観光案内所における観光情報の発信 開設日：月・火・木・金・土・日・祝日 10時～16時</p> <p>【観光案内標識設置事業】東京都観光案内標識設置補助金交付要綱に基づく補助事業 17年度 日暮里地区 4基設置 18年度 南千住地区 5基設置 19年度 都電川線沿線 5基設置 20年度 汐入地区 5基設置 22年度 三ノ輪停留場標識を都から移管 29年度 20基盤面改訂</p> <p>【外国人来訪者受入体制整備事業】外国人受入環境整備に対する補助事業、外国人向けイベント実施 区内の宿泊施設、飲食店を営む事業者が外国語版のホームページ、パンフレット、メニュー表、看板等を新規に作成する場合の初期経費の一部（3分の2上限20万円）を補助（平成20年度～） 日本文化体験イベント、コッ通り盆踊り大会への外国人誘客</p> <p>【観光ボランティアガイド】まちあるきをはじめとした観光案内の実施、まちあるきガイドの養成 ガイド登録者数：135名（延べ）※現在登録者数：49名（うち休会者8名）</p>							
経過	<p>【観光案内所整備運営事業】 平成28年度 日暮里観光案内所及び南千住観光おもてなしサロン開設（平成29年11月閉鎖）</p> <p>【観光案内標識設置事業】 平成17年度 事業開始（04-03-08観光案内標識設置事業から組み替え）</p> <p>【観光ボランティアガイド事業】 平成18年度 養成講座の開始、ガイド活動の開始（観光情報提供事業として） 平成22年度 観光情報提供事業より移管</p> <p>【外国人来訪者受入体制整備事業】 平成20年度 事業開始 平成26年度 要綱を一部改正（対象事業を飲食店にも拡充する） 平成27年度 要綱を一部改正（宿泊施設・飲食店ともに対象事業を拡充する） 平成29年度 日本文化体験イベント開始（日本舞踊体験、商店街ツアー）</p>							
必要性	多言語案内や標識等の整備を進めることで、外国人をはじめとした観光客に荒川区の観光における満足度を高め、リピーターとしての来訪増加が期待出来る。							
実施方法	（ 2一部委託 ） （ 直営の場合 <input type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤 <input type="checkbox"/> 臨時職員 ）							
指 標	事務事業の成果とする指標名		指標の推移				指標に関する説明	
			28年度	29年度	30年度	元年度見込み		目標値(8年度)
	①	日暮里観光案内所等利用者数(人)	11,174	29,186	33,601	36,000	36,300	年度実績数 ※28年度開設
	②	外国語版HP等作成支援(件)	1	0	0	2	5	年度実績数
③	観光ボランティアガイドの活動(回)	22	17	34	35	35	来訪者からの依頼に基く活動数	
事務事業の分類		分類についての説明・意見等						
元年度	2年度							
重点的に推進	重点的に推進	観光案内所におけるきめ細かな観光案内をはじめ、観光案内標識の整備、観光ボランティアガイドの養成など、来訪者の受入環境の整備を積極的に推進する。						

予算・決算額等の推移	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	
予算額	1,054	3,182	1,891	22,674	14,558	5,997	7,349	
決算額(元年度は見込み)	735	2,359	1,308	8,259	10,788	3,280	7,349	
実績の推移	事項名(元年度は見込み)	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度
	観光案内標識設置	-	-	-	-	-	-	-
	観光案内標識内容更新・修正	5	5	-	-	20	-	-
	外国語版HP作成支援	0	2	1	1	0	0	2
	ガイド活動	29	32	23	25	21	34	35

予算・決算の内訳								
平成29年度(決算)			平成30年度(決算)			令和元年度(予算)		
節	主な事項	金額(千円)	節	主な事項	金額(千円)	節	主な事項	金額(千円)
報償費	観光案内所スタッフ謝礼	2,689	報償費	観光案内所スタッフ謝礼、ガイド養成講座講師謝礼等	2,335	報償費	観光案内所スタッフ謝礼、ガイド養成講座講師謝礼等	3,153
需用費	案内所整備用消耗品・ガイド用消耗品ほか	194	需用費	案内所整備用消耗品・ガイド用消耗品ほか	147	需用費	案内所整備用消耗品・ガイド用消耗品ほか	205
役務費	案内所通信費・ガイド保険料ほか	288	役務費	案内所通信費・ガイド保険料ほか	144	役務費	案内所通信費・ガイド保険料ほか	303
委託料	観光案内標識盤面修正委託ほか	7,090	委託料	観光案内標識清掃委託ほか	265	委託料	観光案内標識盤面修正委託ほか	2,895
使用料等	案内所賃料	389	使用料等	案内所賃料	389	使用料等	案内所賃料	393
償還金	サロン廃止に伴う補助金返還	137	負担金補助等	外国人来訪者受入整備補助金	0	負担金補助等	外国人来訪者受入整備補助金	400

行政コスト計算書	勘定科目				行政収入	勘定科目			
	29年度	30年度	差額	29年度		30年度	差額		
行政費用	給与関係費	11,100	11,307	207	地方税	0	0	0	
	物件費	7,939	922	▲ 7,017	国庫支出金	0	0	0	
	維持補修費	0	0	0	都支出金	4,331	0	▲ 4,331	
	扶助費	0	0	0	分担金及び負担金	0	0	0	
	補助費等	2,849	2,358	▲ 491	使用料及び手数料	0	0	0	
	減価償却費	531	531	0	その他	0	0	0	
	不納欠損・貸倒引当金繰入額	0	0	0	行政収入合計(a)	4,331	0	▲ 4,331	
	賞与・退職給与引当金繰入額	612	617	5	行政収支差額(a)-(b)=(c)	▲ 18,700	▲ 15,735	2,965	
	その他行政費用	0	0	0	金融収支差額(d)	0	0	0	
	行政費用合計(b)	23,031	15,735	▲ 7,296	通常収支差額(c)+(d)=(e)	▲ 18,700	▲ 15,735	2,965	
	特別費用(g)	0	0	0	特別収入(f)	0	0	0	
	特別収支差額(f)-(g)=(h)	0	0	0	当期収支差額(e)+(h)	▲ 18,700	▲ 15,735	2,965	

備考 行政費用では、給与関係費を除くと補助費等が主なものであり、主な内訳としては、日暮里観光案内所スタッフ謝礼に2,313,600円かかっている。また、物件費は前年度比で約7,000千円減少しているが、これは29年度に観光案内標識の盤面更新を行ったためである。これに伴い、補助金による行政収入が皆減している。

- 問題点・課題
- 外国人観光客向けの日本文化体験イベントの充実を図り、より一層の賑わいを創出する必要がある。
 - Wi-Fiスポットの整備等旅行者の受入におけるハード面の整備の充実を図る必要がある。
 - 多言語でのガイドが可能なボランティアガイドの育成が必要である。
 - 外国人来訪者受入体制整備支援事業補助金のPRを積極的に行い、事業者支援に繋げ、外国人観光客の受入体制の整備充実を図る必要がある。
 - 日暮里観光案内所における観光客の区内誘導のための更なる情報発信が必要である。

問題点・課題の改善策

	平成30年度に取り組む具体的な改善内容	平成30年度に実施した改善内容および評価	令和元年度以降に取り組む具体的な改善内容
①	日暮里観光案内所を訪れる外国人をはじめとした観光客を区内へ誘導するため、より一層きめ細かなサービスを提供する。	観光客を区内に誘導するための方策の一つとして、日暮里観光案内所の開設日を増加した。	引き続き、日暮里観光案内所を訪れる外国人をはじめとした観光客を区内へ誘導するため、より一層きめ細かなサービスを提供する
②	荒川区を訪れる外国人観光客向けに日本文化体験を定期的実施し、観光客へのサービスの充実を図る。	外国人観光客向けの日本文化体験ツアーを年間通して実施したが、集客に苦慮した。	外国人観光客向けの日本文化体験ツアーの告知方法や、実施内容の改善について検討する。
③	北区観光ボランティアガイドの会と、合同でまちあるきを開催する。	北区観光ボランティアガイドの会と合同まちあるきを開催した。その後振り返りを実施し、31年度以降の継続開催を決定した。	30年度の反省を踏まえ、コースや実施方法を改善し、より満足度の高いまちあるきツアーとする。

他区の実況	(実施 15 区 未実施 0 区 不明 7 区)
観光案内標識…	台東区、豊島区、中央区、葛飾区、千代田区、足立区他

議会要旨 平成20年3定 外国人観光客誘致に向け、観光案内所を日暮里駅周辺へ設置すべき。
 平成28年度決特 区内の日本語学校生徒の通訳ボランティアとしての活用について
 平成28年度決特 日暮里活性化施設を活用した区内への誘客について

事務事業分析シート（令和元年度）

No1

事務事業コード	06-04-08	戦略プラン	<input checked="" type="checkbox"/> 協働	<input type="checkbox"/> 業務	<input type="checkbox"/> 財務	<input type="checkbox"/> 人事		
事務事業名	水辺空間活用事業	部課名	産業経済部観光振興課	課長名	石崎			
		担当者名	長崎	内線	461			
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（元年度）	01-02-04	水辺空間活用事業						
事務事業の種類	<input type="checkbox"/> 新規事業（ <input type="checkbox"/> 元年度 <input type="checkbox"/> 30年度）		<input type="checkbox"/> 建設事業		<input checked="" type="checkbox"/> それ以外の継続事業			
開始年度	<input type="checkbox"/> 昭和 <input checked="" type="checkbox"/> 平成 <input type="checkbox"/> 令和	26年度	根拠					
終期設定	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	年度	法令等					
実施基準	<input type="checkbox"/> 法令基準内	<input type="checkbox"/> 都基準内	<input checked="" type="checkbox"/> 区独自基準	計画区分	<input checked="" type="checkbox"/> 計画	<input type="checkbox"/> 非計画		
行政評価事業体系	分野	Ⅲ	産業革新都市					
	政策	06	人が集う魅力あるまちの形成					
	施策	01	観光資源の発掘とにぎわいの創出					
目的	<ul style="list-style-type: none"> ・ 隅田川の水辺空間を活用し、賑わいを創出するためのイベントを継続して実施することにより、都内でも数少ない広々とした水辺空間のある汐入地域などの魅力を発信し、誘客を図る。 ・ 隅田川ルネサンス推進協議会への加入を契機に、引き続き東京都及び隅田川沿川の近隣区、団体等と連携を図り、東京の貴重な水辺空間である隅田川の魅力発信をこれまで以上に推進していく。 							
対象者等	区民、区外の人々及び来訪者							
内容	<p>○水辺フェスタの開催について 【会場 あらかわ遊園】(1)平成30年6月24日実施(2)内容 ①パフォーマンスショー②物販(全国連携・地元商店街)③都電マジックショー④区政PRコーナー⑤水辺スタンプラリー⑥着ぐるみ登場⑦アンパンマンショー等(3)来場者数 6,800人 【会場 都立汐入公園】(1)平成30年9月9日実施(2)内容①ロードトレイン②キッチンカー大集合③パフォーマンスショー④水辺スタンプラリー⑤着ぐるみ登場⑥水辺のコンサート(三中)⑦三河島菜ワークショップ等※入口アーチ・アドバルーンを設置(3)来場者数 4,000人</p> <p>○隅田川ルネサンス推進協議会について 隅田川ルネサンスは隅田川の賑わいを現代に生まれ変わらせ、新たな水と緑の都市文化を未来につなぐ取組みとして始められ、東京都と隅田川沿川区や関係諸団体との連携を図るため学識経験者や地元団体、行政関係者等から成る隅田川ルネサンス推進協議会が設置された。</p>							
経過	平成23年4月	隅田川ルネサンス推進協議会の設立(中央、台東、墨田、江東及び各区の観光協会、学識経験者、東京都が参加)						
	平成24年度	各種イベントの後援(東京ホテル、隅田川夕日見、舟運フォーラム等)						
	平成25年度	①特定テーマの選定 船上サービスの充実、夜間景観のイメージアップ、飲食店の展開 ②隅田川ルネサンスのロゴマークの作成 ③ホームページのリニューアル						
	平成26年2月	荒川区が協議会に正式参加						
	平成26年度	社会実験とこれまでのまとめ 汐入水辺フェスタ開催(台風接近により中止とした)						
	平成27年度	汐入水辺フェスタ開催(9/13)※東京都パラリンピック体験プログラムと同時開催						
	平成28年度	あらかわ遊園水辺フェスタ(6/5)、汐入水辺フェスタ(9/11)開催						
	平成29年度	あらかわ遊園水辺フェスタ(6/25)、汐入水辺フェスタ(9/10)開催						
	平成30年度	あらかわ遊園水辺フェスタ(6/24)、汐入水辺フェスタ(9/9)開催						
必要性	隅田川の水辺を活用したイベントを継続して実施することで、水辺の賑わいが創出され、区外からの誘客と区民の水辺のまちとしての機運の醸成につながることが期待できる。							
実施方法	(二部委託) (直営の場合 <input type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤 <input type="checkbox"/> 臨時職員)							
指 標	事務事業の成果とする指標名		指標の推移				指標に関する説明	
			28年度	29年度	30年度	元年度見込み		目標値(8年度)
	①	水辺フェスタ来場者	13,500	9,600	10,800	4,000	18,500	各会場の主催の休日イベント来場者数をもとに算出
	②							
③								
事務事業の分類		分類についての説明・意見等						
元年度	2年度							
継続	継続	東京都、隅田川沿川区、関係団体等と連携のうえ、地域資源の一つである隅田川の水辺空間を活用した取組みを継続していく。						

予算・決算額等の推移		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度
予算額		—	588	777	2,926	4,433	4,753	3,071
決算額（元年度は見込み）		—	414	663	2,749	3,860	4,470	3,071
実績の推移		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度
事項名（元年度は見込み）								
汐入水辺フェスタ来場者		—	—	3,700	7,000	6,000	4,000	4,000
あらかわ遊園水辺フェスタ		—	—	—	6,500	3,600	6,800	—
予算・決算の内訳								
平成29年度（決算）			平成30年度（決算）			令和元年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
需用費	水辺フェスタ関連消耗品	132	需用費	水辺フェスタ関連消耗品	164	需用費	水辺フェスタ関連消耗品	189
役務費	水辺フェスタ開催に伴う保険料	66	役務費	水辺フェスタ開催に伴う保険料	72	役務費	水辺フェスタ開催に伴う保険料	43
委託料	水辺フェスタ会場設営費	3,607	委託料	水辺フェスタ会場設営費	4,179	委託料	水辺フェスタ会場設営費	2,839
使用料等	水辺フェスタ開催に伴う都電使用料	56	使用料等	水辺フェスタ開催に伴う都電使用料	56			

(単位：千円)

行政コスト計算書	勘定科目				行政収入	勘定科目			
	29年度	30年度	差額	29年度		30年度	差額		
行政費用	給与関係費	6,055	5,899	▲ 156	地方税	0	0	0	
	物件費	3,794	4,398	604	国庫支出金	0	0	0	
	維持補修費	0	0	0	都支出金	0	0	0	
	扶助費	0	0	0	分担金及び負担金	0	0	0	
	補助費等	66	72	6	使用料及び手数料	0	0	0	
	減価償却費	0	0	0	その他	0	0	0	
	不納欠損・貸倒引当金繰入額	0	0	0	行政収入合計(a)	0	0	0	
	賞与・退職給与引当金繰入額	334	322	▲ 12	行政収支差額(a)-(b)=(c)	▲ 10,249	▲ 10,691	▲ 442	
	その他行政費用	0	0	0	金融収支差額(d)	0	0	0	
	行政費用合計(b)	10,249	10,691	442	通常収支差額(c)+(d)=(e)	▲ 10,249	▲ 10,691	▲ 442	
	特別費用(g)	0	0	0	特別収入(f)	0	0	0	
特別収支差額(f)-(g)=(h)	0	0	0	当期収支差額(e)+(h)	▲ 10,249	▲ 10,691	▲ 442		

備考

行政費用では、給与関係費を除くと物件費が主なものであり、主な内訳としては、あらかわ遊園及び汐入水辺フェスタの会場設営及びイベント運営委託に3,901,500円かかっている。

問題点・課題

- ・水辺空間を活用し、賑わいを創出するためには、庁内他課等と連携の上、魅力あるイベントを継続して実施していくとともに東京都や隅田川沿川の近隣区、関連団体との連携を図る必要がある。
- ・水辺ラインを最大限活用できるよう隅田川の潮位を考慮し、イベント開催時期を決定する必要がある。
- ・吹奏楽の演奏等については、会場が音の響きにくい環境にあるため川辺の賑わいを効果的に演出できるよう音響の工夫が必要である。

問題点・課題の改善策

	平成30年度に取り組む具体的な改善内容	平成30年度に実施した改善内容および評価	令和元年度以降に取り組む具体的な改善内容
①	29年度に実施した内容を更に充実させ、あらかわ遊園及び汐入公園において水辺フェスタを実施する。	あらかわ遊園及び汐入公園水辺フェスタにおいて新たなワークショップコーナーを設けた。	あらかわ遊園の休園に伴い、31年度はあらかわ遊園水辺フェスタは実施しない。汐入水辺フェスタの内容を充実させる。
②	29年度に引き続き、他課等と更なる連携を図り、水辺フェスタを実施する。	29年度に引き続き、他課等と連携し、水辺フェスタを実施した。	30年度に引き続き、他課等と更なる連携を図り水辺フェスタを実施する。
③	汐入水辺フェスタにおいて、より多くの水辺ラインの運行が可能となるよう東京都公園協会と調整を図る。	潮位の関係で、物理的に水辺ラインの運行が不可であったため、他のイベントで内容の充実を図った。	汐入水辺フェスタにおいて、水辺ラインの運行が可能となるよう、東京都公園協会と調整を図る。

他区の実況	（実施）	4	区	未実施	18	区	不明	0	区
	平成23年4月に中央区、台東区、墨田区、江東区の4区が隅田川ルネサンス推進協議会へ参加								
議会議事録（要旨）	平成27年度決特 イベント自体は盛況であった。会場へのアプローチ、区外へのPR、イベント内容等については、更なる充実を図るべき。 平成28年度決特 汐入水辺フェスタの目的を鑑みるともっと水に親しんだ内容にするべき。 平成28年度決特 イベント実施の際は、隅田川対岸の墨田区など、他区との連携を図ってはどうか。								

事務事業分析シート（令和元年度）

No1

事務事業コード	06-04-09	戦略プラン	<input type="radio"/> 協働	<input type="radio"/> 業務	<input type="radio"/> 財務	<input type="radio"/> 人事			
事務事業名	俳句活用事業	部課名	産業経済部観光振興課	課長名	石崎				
		担当者名	池野	内線	461				
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（元年度）	01-05-01	俳句活用事業							
事務事業の種類	<input type="radio"/> 新規事業（ <input type="radio"/> 元年度 <input type="radio"/> 30年度）		<input type="radio"/> 建設事業		<input checked="" type="radio"/> それ以外の継続事業				
開始年度	<input type="radio"/> 昭和 <input checked="" type="radio"/> 平成 <input type="radio"/> 令和	27年度	根拠						
終期設定	<input type="radio"/> 有 <input checked="" type="radio"/> 無	年度	法令等						
実施基準	<input type="radio"/> 法令基準内 <input type="radio"/> 都基準内 <input checked="" type="radio"/> 区独自基準		計画区分	<input checked="" type="radio"/> 計画 <input type="radio"/> 非計画					
行政評価事業体系	分野	Ⅲ	産業革新都市						
	政策	06	人が集う魅力あるまちの形成						
	施策	01	観光資源の発掘とにぎわいの創出						
目的	荒川区俳句のまち宣言に基づき、俳句のまちであることを区内外に向け広くPRする各種事業を実施することで、誘客を促進し、地域の賑わいを創出する。								
対象者等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 来街者及び区民、区外の方々 ・ 奥の細道サミット参加自治体 								
内容	<p>俳句及び奥の細道に所縁の深い区として、「俳句のまちあらかわ」及び「奥の細道矢立初めの地千住あらかわ」を広く内外へPRし、区外からの誘客を促進するとともに、地域の賑わいを創出する。</p> <p>[30年度関連事業(イベント関連)]</p> <p>① 旅立ちの日記念事業 千住まちあるきツアー(5月18日、募集60名、応募184名、参加52名)</p> <p>② 芭蕉の大橋渡り(8月25日、【一般】募集50名、応募52名、参加52名【地元小中学】参加23名)</p> <p>③ フォト俳句コンテスト(募集期間平成30年10月1日～平成31年1月18日、応募作品数666句)</p> <p>④ 都電DE俳句(【第1回】11月29日、募集15名、応募73名、参加15名 【第2回】3月12日、募集15名、応募55名、参加15名) ⑤ ラッピング都電車体フィルムの更新</p> <p>[30年度関連(その他)]</p> <p>① 俳句のまちあらかわPR商品開発補助金 ② 俳句のまちあらかわノベルティグッズの購入 ③ 奥の細道サミットin大石田(7月14、15日) ④ 奥の細道所縁の自治体の物産展への出店(大垣市9月・11月)</p>								
経過	<p>荒川区は奥の細道所縁の自治体・団体が加入している「奥の細道サミット」に平成19年度から参加しており、平成27年3月14日に「奥の細道千住あらかわサミット」を開催した。</p> <p>また、サミット同日には、「荒川区俳句のまち宣言」を発表し、以降様々な俳句文化の振興に取り組んでいる。</p> <p>[サミット開催状況]</p> <p>28年度 岐阜県大垣市 29年度 富山県高岡市 30年度 山形県大石田町 31年度 石川県金沢市</p> <p>[近年実施した主なイベント]</p> <p>29年度 ラッピング都電(運行)、都電DE俳句、千住まちあるきツアー、芭蕉の大橋渡り、フォト俳句コンテスト、PR商品開発補助金、関連自治体への出店</p> <p>30年度 ラッピング都電(運行・フィルム更新)、都電DE俳句、千住まちあるきツアー、芭蕉の大橋渡り、フォト俳句コンテスト、PR商品開発補助金、関連自治体への出店</p>								
必要性	俳句のまちあらかわ及び奥の細道矢立初めの地千住あらかわを継続的にPRしていくことで、区内への誘客及び地域の活性化の双方において大きな効果が期待できる。								
実施方法	(<input type="radio"/> 一部委託) (直営の場合 <input type="radio"/> 常勤 <input type="radio"/> 非常勤 <input type="radio"/> 臨時職員)								
指 標	事務事業の成果とする指標名		指標の推移				指標に関する説明		
			28年度	29年度	30年度	元年度見込み		目標値(8年度)	
	①	俳句関連事業数(観光振興課)		9	8	10	15	11	
	②								
③									
事務事業の分類			分類についての説明・意見等						
元年度		2年度							
重点的に推進		重点的に推進		区外からの誘客を促進し、地域の活性化を図るため、「俳句のまちあらかわ」及び「奥の細道矢立初めの地あらかわ」を活用した観光振興事業を重点的に推進していく。					

予算・決算額等の推移		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度
予算額		-	-	7,102	14,431	13,418	14,646	17,267
決算額(元年度は見込み)		-	-	4,875	9,746	11,463	12,205	17,267
実績の推移		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度
事項名(元年度は見込み)								
関連事業実施数(観光振興課)		2(奥の細道事業費)	6(奥の細道事業費)	9	9	8	10	10
奥の細道サミット加入団体数		-	-	38	38	42	42	42
予算・決算の内訳								
平成29年度(決算)			平成30年度(決算)			令和元年度(予算)		
節	主な事項	金額(千円)	節	主な事項	金額(千円)	節	主な事項	金額(千円)
職員手当等	俳句関連イベント学芸員時間外手当	0	職員手当等	俳句関連イベント学芸員時間外手当	0	職員手当等	俳句関連イベント学芸員時間外手当	7
報償費	サミット関連自治体への出店報償費	79	報償費	サミット関連自治体への出店報償費	73	報償費	サミット関連自治体への出店報償費	296
旅費	サミット関連自治体への出展旅費	493	旅費	サミット関連自治体への出展旅費	362	旅費	サミット関連自治体への出展旅費	699
需用費	俳句関連イベント消耗品費	568	需用費	俳句関連イベント消耗品費	612	需用費	俳句関連イベント消耗品費	1,279
役務費	ラッピング都電広告料	2,033	役務費	ラッピング都電広告料	2,296	役務費	ラッピング都電広告料	2,437
委託料	俳句イベント運営委託費	8,210	委託料	俳句イベント運営委託費	8,585	委託料	俳句イベント運営委託費	9,089
負担金補助等	俳句のまちあらかわ商品開発補助金	80	負担金補助等	俳句のまちあらかわ商品開発補助金	280	負担金補助等	奥の細道紀行330年記念事業企画負担金	2,530

行政コスト計算書	勘定科目			行政収入	勘定科目			
	29年度	30年度	差額		29年度	30年度	差額	
行政費用	給与関係費	10,596	6,883	▲ 3,713	地方税	0	0	0
	物件費	11,289	11,838	549	国庫支出金	0	0	0
	維持補修費	0	0	0	都支出金	2,646	149	▲ 2,497
	扶助費	0	0	0	分担金及び負担金	0	0	0
	補助費等	174	367	193	使用料及び手数料	0	0	0
	減価償却費	0	0	0	その他	0	0	0
	不納欠損・貸倒引当金繰入額	0	0	0	行政収入合計(a)	2,646	149	▲ 2,497
	賞与・退職給与引当金繰入額	584	376	▲ 208	行政収支差額(a)-(b)=(c)	▲ 19,997	▲ 19,315	682
	その他行政費用	0	0	0	金融収支差額(d)	0	0	0
	行政費用合計(b)	22,643	19,464	▲ 3,179	通常収支差額(c)+(d)=(e)	▲ 19,997	▲ 19,315	682
特別費用(g)	0	0	0	特別収入(f)	0	0	0	
特別収支差額(f)-(g)=(h)	0	0	0	当期収支差額(e)+(h)	▲ 19,997	▲ 19,315	682	

備考 行政費用としては、給与関係費を除くと物件費が主なものであり、主な内訳としては、フォト俳句コンテスト実施に係る運営・広告掲載委託費として5,389,200円がかかっている。行政収入では、東京の多様性を活かした観光まちづくり推進事業補助金として149,000円の収入がある。

問題点・課題
 ・俳句文化及び奥の細道を活用した区のPRを行うためには、特定の地域だけでなく、区内全域へ「俳句のまちあらかわ」及び「奥の細道矢立初めの地」を広めることが求められる。
 ・俳句文化によるまちの魅力を発信し、誘客促進を行うため、観光関係団体・文化団体や地域文化スポーツ部、教育委員会など関係部署と更なる連携を図り、PRや事業企画等を進めていく必要がある。
 ・2019年は松尾芭蕉の奥の細道への旅立ちから330年の節目の年にあたるため、この機を生かし、「俳句のまちあらかわ」を区内外に広く浸透させるよう事業の実施に取り組む必要がある

問題点・課題の改善策

	平成30年度に取り組む具体的な改善内容	平成30年度に実施した改善内容および評価	令和元年度以降に取り組む具体的な改善内容
①	句碑や芭蕉像などの「俳句のまちあらかわ」のシンボルを効果的に活用し、各種俳句関連事業を実施していく。	千住まちあるきツアーなどの事業において、参加者に芭蕉像や金子兜太句碑の案内を行い、「俳句のまちあらかわ」をPRした。	奥の細道ゆかりの自治体で開催する「紀行330年記念事業」に積極的に参画し、広く「俳句のまちあらかわ」をPRする。
②	庁内関係部署や地元商店街等と連携し、俳句を活用した取組を継続して実施していく。	芭蕉や旅娘に扮し、街を練り歩く「芭蕉の大橋渡り」を地元の商店街と連携し、実施した。	奥の細道旅立ち330年を効果的にPRし、関係部署や商店街等と連携することで、俳句事業による賑わいを創出する。
③	既存の観光資源に俳句を絡め、効果的に情報を発信していく。	「俳句のまちあらかわ」をPRするラッピングを施した都電を活用し、俳句講座「都電DE俳句」を実施した。	既存の観光資源に俳句を絡め、効果的に情報を発信する。

他区の実況	(実施 2 区 未実施 20 区 不明 0 区) 「奥の細道サミット」加入団体は、23区では当区のほか、江東区、足立区の2区。
-------	--

議会議決要旨
 平成25年1定 「奥の細道旅立ちの地」という重要な地域資源を活かした観光振興を推進すべき
 平成28年度2月会議 「俳句のまちあらかわ」を区内外に広く周知するための取組を実施すべき
 平成28年度予特 新たに建立する句碑を他の俳句関連スポットとともに観光資源として活用すべき

事務事業分析シート（令和元年度）

No1

事務事業コード	06-04-10	戦略プラン	<input checked="" type="checkbox"/> 協働 <input type="checkbox"/> 業務 <input type="checkbox"/> 財務 <input type="checkbox"/> 人事					
事務事業名	あらかわの伝統野菜PR事業	部課名	産業経済部観光振興課		課長名	石崎		
		担当者名	本宮		内線	461		
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（元年度）	01-01-03	あらかわの伝統野菜PR事業						
事務事業の種類	<input type="checkbox"/> 新規事業（ <input type="checkbox"/> 元年度 <input type="checkbox"/> 30年度）		<input type="checkbox"/> 建設事業		<input checked="" type="checkbox"/> それ以外の継続事業			
開始年度	<input type="checkbox"/> 昭和 <input checked="" type="checkbox"/> 平成 <input type="checkbox"/> 令和	24	年度	根拠				
終期設定	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無		年度	法令等				
実施基準	<input type="checkbox"/> 法令基準内 <input type="checkbox"/> 都基準内 <input checked="" type="checkbox"/> 区独自基準		計画区分	<input type="checkbox"/> 計画 <input checked="" type="checkbox"/> 非計画				
行政評価事業体系	分野	Ⅲ	産業革新都市					
	政策	06	人が集う魅力あるまちの形成					
	施策	01	観光資源の発掘とにぎわいの創出					
目的	地域の活性化や区民の郷土愛の向上を目指して、かつて江戸時代に荒川区で生産されていた三河島菜など荒川区の地名を冠した野菜を復活させる取り組みを行い、江戸東京野菜として区内外に広くPRを行う。							
対象者等	区内外の住民・観光客、区内協力店舗等							
内容	①都立農産高校との連携（平成24年度～） ・平成24年に園芸部にて三河島菜と汐入大根の試験栽培を開始（汐入大根は不作）。翌年より授業として三河島菜を栽培。栽培したものは無償提供頂き区事業で活用 ・三河島菜を「にっぽりマルシェ」にて、生徒が販売 ・これまでの三河島菜の研究成果を「にっぽりマルシェ」にてブース展示、来場者に説明（平成27年度～） ②区役所内レストランさくらでの三河島菜フェアの開催（平成25年度～） ・三河島菜を使用した定食を日替わりで1週間提供 ③三河島菜イメージキャラクターの作成及びPRグッズの作成（平成26年度～） ・クリアファイル、トートバッグ							
経過	・平成18年度、荒川ふるさと文化館にて、荒川のブランド野菜をテーマにした「あらかわのお野菜 都市とお野菜」を開催。尾久宮前小学校栄養士が、絶えてしまったとされる荒川区ゆかりの伝統野菜が現存しないか江戸東京・伝統野菜研究会の大竹道茂氏に調査を依頼したところ、仙台で栽培されていた「仙台芭蕉菜」が、その子孫種であることが判明。大竹氏が小平市の農家へ種を持ち込み栽培。 ・平成23年 7月 「青茎三河島菜」としてJA東京中央会によって江戸東京野菜に選定。 ・平成24年10月 都立農産高校と連携し三河島菜及び汐入大根の試験栽培を開始 ・平成25年 9月～ 授業の一環で三河島菜の栽培を開始（毎年9月頃） ・平成25年12月～ 都立農産高校の生徒が「にっぽりマルシェ」で三河島菜を販売 ・平成26年 1月～ 区役所内「レストランさくら」にて1週間三河島菜メニューフェアを開催 ・平成26年 3月～ 都立農産高校へ区から感謝状贈呈（毎年3月） ・平成30年 9月 汐入水辺フェスタに参加。三河島菜を育てるワークショップを開催							
必要性	・新たな観光資源の創出は、更なる誘客の促進に必要不可欠である。 ・荒川区独自の文化を観光資源に活用することは、区の魅力をPRするために大切である。							
実施方法	（ <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託） （直営の場合 <input type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤 <input type="checkbox"/> 臨時職員）							
指 標	事務事業の成果とする指標名		指標の推移				指標に関する説明	
			28年度	29年度	30年度	元年度見込み		目標値(8年度)
	①	三河島菜フェア提供食数（合計）	502	453	532	600	700	レストランさくら実施（5日間合計）
	②	三河島菜販売数（セット）	80	84	112	200	300	にっぽりマルシェでの販売
③								
事務事業の分類		分類についての説明・意見等						
元年度	2年度							
継続	継続	三河島菜の認知度を高め、区民の郷土愛の醸成や区の魅力向上を図るため、今後もこれまでの取組を継続していく。						

予算・決算額等の推移		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度
予算額		—	—	447	377	410	468	464
決算額（元年度は見込み）		—	—	239	278	248	300	464
実績の推移	事項名（元年度は見込み）	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度
	三河島菜フェア提供食数（合計）	482	452	718	502	453	532	600
	三河島菜販売数（セット）	173	329	200	80	84	112	200
予算・決算の内訳								
平成29年度（決算）			平成30年度（決算）			令和元年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
役務費	勉強会講師謝礼	18	役務費	勉強会講師謝礼	18	報償費	勉強会講師謝礼	69
需用費	あらかわの伝統野菜PR用消耗品	136	需用費	あらかわの伝統野菜PR用消耗品	176	需用費	あらかわの伝統野菜PR用消耗品	280
委託料	マルシェ展示用パネル設営	94	委託料	マルシェ展示用パネル設営	106	委託料	マルシェ展示用パネル設営	115

(単位：千円)

行政コスト計算書	勘定科目		29年度	30年度	差額	行政収入	勘定科目		29年度	30年度	差額
	給与関係費		3,027	1,475	▲ 1,552		地方税		0	0	0
物件費		248	300	52	国庫支出金		0	0	0		
維持補修費		0	0	0	都支出金		0	0	0		
扶助費		0	0	0	分担金及び負担金		0	0	0		
補助費等		0	0	0	使用料及び手数料		0	0	0		
減価償却費		0	0	0	その他		0	0	0		
不納欠損・貸倒引当金繰入額		0	0	0	行政収入合計(a)		0	0	0		
賞与・退職給与引当金繰入額		167	80	▲ 87	行政収支差額(a)-(b)=(c)		▲ 3,442	▲ 1,855	1,587		
その他行政費用		0	0	0	金融収支差額(d)		0	0	0		
行政費用合計(b)		3,442	1,855	▲ 1,587	通常収支差額(c)+(d)=(e)		▲ 3,442	▲ 1,855	1,587		
特別費用(g)		0	0	0	特別収入(f)		0	0	0		
特別収支差額(f)-(g)=(h)		0	0	0	当期収支差額(e)+(h)		▲ 3,442	▲ 1,855	1,587		

備考

行政費用では、給与関係費を除くと物件費が主なものであり、主な内訳としては、イベント出展におけるパネル展示用ついたての設置委託に106,272円、三河島菜PR用バッグの作成に140,400円かかっている。

問題点・課題

・荒川の伝統野菜として区民に認知され、問い合わせも増えつつあるが、生産量が限られるため区民が実際に食したり、直接触れる機会は少ない。
・荒川区内で生産されていないため、区外の農家などの連携先の開拓が必要である。

問題点・課題の改善策

	平成30年度に取り組む具体的な改善内容	平成30年度に実施した改善内容および評価	令和元年度以降に取り組む具体的な改善内容
①	30年度以降も「復活！あらかわの伝統野菜」だよりによる情報発信を継続して行っていく	30年度は「復活！あらかわの伝統野菜」だよりを4回発信し、多くの情報発信を行った	31年度以降も「復活！あらかわの伝統野菜」だよりによる情報発信を継続して行っていく
②	30年度以降も各所と連携・協力しながら三河島菜をPRする機会を設ける。また、広報の仕方についてもより工夫を行う	都立農産高校、JR三河島駅と連携・協力し、にっぽりマルシェで三河島菜のPRを行い、翌週のフェアに人を呼び込むことができた	31年度以降も各所と連携・協力しながら三河島菜をPRする機会を設ける。また、広報の仕方についてもより工夫を行う
③	新たな連携先の開拓について積極的に検討していく	新たな連携先の開拓について積極的に検討した	31年度以降も新たな連携先の開拓について積極的に検討していく

他区の実況

(実施 0 区 未実施 22 区 不明 0 区)

議会要旨

平成28年度予特 三河島菜の種をもっと広く一般の方が入手出来るようにしてはどうか。
平成28年度予特 尾久宮前小で育てている三河島菜の鉢植えを区役所に展示し、PRしてはどうか。

事務事業分析シート（令和元年度）

No1

事務事業コード	06-04-11	戦略プラン	<input checked="" type="checkbox"/> 協働	<input type="checkbox"/> 業務	<input type="checkbox"/> 財務	<input type="checkbox"/> 人事		
事務事業名	太田道灌魅力発信事業	部課名	産業経済部観光振興課	課長名	石崎			
		担当者名	本宮	内線	461			
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（元年度）	01-02-05	太田道灌魅力発信事業						
事務事業の種類	<input checked="" type="checkbox"/> 新規事業（ <input type="checkbox"/> 元年度 <input checked="" type="checkbox"/> 30年度）		<input type="checkbox"/> 建設事業		<input type="checkbox"/> それ以外の継続事業			
開始年度	<input type="checkbox"/> 昭和 <input checked="" type="checkbox"/> 平成 <input type="checkbox"/> 令和 30年度	根拠						
終期設定	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	年度 法令等						
実施基準	<input type="checkbox"/> 法令基準内 <input type="checkbox"/> 都基準内 <input checked="" type="checkbox"/> 区独自基準		計画区分	<input type="checkbox"/> 計画 <input checked="" type="checkbox"/> 非計画				
行政評価事業体系	分野	Ⅲ	産業革新都市					
	政策	06	人が集う魅力あるまちの形成					
	施策	01	観光資源の発掘とにぎわいの創出					
目的	荒川区日暮里地域には、勇壮な太田道灌の騎馬像や山吹の花一枝像、道灌山、道灌丘碑といった太田道灌に関する観光資源が点在していることから、太田道灌を観光資源とし、イベントやPR活動を行うことで日暮里を活性化させ、荒川区への来訪促進を図る。							
対象者等	区内外の住民・観光客、区内外協力店舗等							
内容	1 日暮里道灌まつり 太田道灌に所縁のある自治体や店舗による物販及び観光PR、ステージでの催し、パネル展示等を実施 2 PR活動 ・区HPでの紹介(荒川ゆうネットアーカイブにて太田道灌像について紹介) ・観光パンフレットに掲載(おいでよ!あらかわ(区外向けパンフレット)・荒川区観光ボランティアガイドマップ・日暮里舎人ライナー都電沿線まちあるきマップ)							
経過	日暮里道灌まつり 平成30年度 10月20日(土)、21日(日) ※にっぽりマルシェと同時開催 会場:日暮里駅前イベント広場 内容:自治体・店舗:神奈川県伊勢原市、埼玉県越生町、太田酒造株式会社 東京営業所 ※埼玉県川越市は観光PRのみ ※パンフレットの配布…東京都新宿区、東京都北区、埼玉県さいたま市岩槻区 ステージ:伊勢原手作り甲冑隊、落語家 古今亭駿菊による「古典落語 道灌」、若月流 若月仙富代による日本舞踊、あら坊・あらみい登場 その他:まちあるきツアー、パネル展示、NHK大河ドラマ署名活動							
必要性	荒川区の歴史文化を観光資源に活用することにより、区のぎわいを創出し、地域経済の活性化するために必要である。							
実施方法	(2一部委託) (直営の場合 <input type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤 <input type="checkbox"/> 臨時職員)							
指 標	事務事業の成果とする指標名		指標の推移				指標に関する説明	
			28年度	29年度	30年度	元年度見込み		目標値(8年度)
	①	日暮里道灌まつり来場者数			5,000	5,000	6,000	
	②							
③								
事務事業の分類		分類についての説明・意見等						
元年度	2年度							
推進	推進	荒川区と太田道灌のつながりの認知度を高め、区民の郷土愛の醸成や区の魅力向上を図るため、取組を推進していく。						

予算・決算額等の推移		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度
予算額						-	2,603	4,195
決算額（元年度は見込み）						-	2,330	4,195
実績の推移	事項名（元年度は見込み）	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度
	日暮里道灌まつり(人)						5,000	5,000
予算・決算の内訳								
平成29年度（決算）			平成30年度（決算）			令和元年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
			役務費	イベント保険料ほか	68	役務費	イベント保険料ほか	497
			需用費	消耗品費	38	需用費	消耗品費ほか	58
			委託料	会場設営及びイベント企画ほか	2,224	委託料	会場設営及びイベント企画ほか	3,640

行政コスト計算書	勘定科目				行政収入	勘定科目			
	29年度	30年度	差額	29年度		30年度	差額		
行政費用	給与関係費	0	4,916	4,916	地方税		0		
	物件費		2,292		国庫支出金		0		
	維持補修費		0		都支出金		1,068		
	扶助費		0		分担金及び負担金		0		
	補助費等		38		使用料及び手数料		0		
	減価償却費		0		その他		0		
	不納欠損・貸倒引当金繰入額		0		行政収入合計(a)	0	1,068	0	
	賞与・退職給与引当金繰入額	0	268	268	行政収支差額(a)-(b)=(c)	0	▲6,446	▲5,184	
	その他行政費用		0		金融収支差額(d)		0		
	行政費用合計(b)	0	7,514	5,184	通常収支差額(c)+(d)=(e)	0	▲6,446	▲5,184	
特別費用(g)		0		特別収入(f)		0			
特別収支差額(f)-(g)=(h)	0	0	0	当期収支差額(e)+(h)	0	▲6,446	▲5,184		

備考 行政費用では、給与関係費を除くと物件費が主なものであり、主な内訳としては、日暮里道灌まつりの会場設営及び運営委託に1,944,000円、日暮里道灌まつりのチラシ・ポスター作成に99,900円かかっている。行政収入では、東京の多様性を活かした観光まちづくり推進協議会補助金として1,068,000円の収入がある。

問題点・課題 荒川区と太田道灌のつながりを更にPRする方法を検討する必要がある。また、関連自治体と交流を深め、連携することにより、太田道灌の魅力を発信する機会を増やす。

問題点・課題の改善策

	平成30年度に取り組む具体的な改善内容	平成30年度に実施した改善内容および評価	令和元年度以降に取り組む具体的な改善内容
①	区内外の方々に荒川区と太田道灌のつながりを知ってもらえるようPR方法を工夫する	日暮里道灌まつりに向け、広報活動を積極的に行った。また、当日は広く太田道灌を知ってもらうため、パネル展示を行った	荒川区と太田道灌ゆかりの地との連携を強めていけるよう工夫する
②			
③			

他区の実況	(実施 0 区 未実施 22 区 不明 0 区)
-------	--------------------------

議会要旨 平成28年度予特 太田道灌を活用し、観光客誘致のためのPRを行うべき
 平成28年度予特 日暮里駅前イベント広場に道灌広場や山吹広場等の愛称名をつけることで、誘客を図るべき
 平成29年度11月会議 太田道灌をテーマとし、ゆかりのある自治体等と連携したイベントを開催するなど、新たな誘客策に取り組むべき
 平成29年度予特 太田道灌を軸とした交流を作り出し、関わりのある自治体と広く連携を進めるべき